

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年 6月3日

事業所名 がじゅまるハウス

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5			・定員より多く利用がある場合は見守りの職員を増やし安全面を考慮する。
	2 職員の配置数は適切である	5		常勤:5名 非常勤:1名配置	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5			・配慮はしているが、目で見えてわかるような貼り紙等の工夫が必要。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5		・午前中に清掃をしている。 ・月に1回エアコン等の掃除をしている。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	1	・イベントがあった際には振り返りを行い、情報共有している。	・目標設定や計画が不十分。職員全体で意識を持って取り組む。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5		・年に1回事業所評価アンケートを行っている。 ・保護者とコミュニケーションをとるように心掛けている。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	2	・年に1回ホームページで公表している。 ・コドモンにて保護者に周知している。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	3		・地域の区長等に外部評価を行ってもらえるか検討している。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5		・業務、人員配置に影響がでないように行っている。 ・研修で学んだことを日々の支援に活かしている。	
適切な	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5		・児童発達支援管理責任者が中心となって作成している。	・職員への共有をこまめに行う必要がある。
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5			・職員への共有をこまめに行う必要がある。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4	1		・「具体的な支援内容」は設定されているが、「項目」が適切に選択されているかわからない。「項目」が分かりやすいように支援計画に記載する。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5		・支援計画を見返し、支援を行っている。	・十分な支援を行えていない児童もいる。改善が必要。
14 活動プログラムの立案をチームで行っている	4	1		・児童がやりたいことを中心に活動している。定期的に個別支援等を行うことを検討している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
支援の提供	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	3	2		・様々なことに興味を持てるように環境作りをする必要がある。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	5			・集団活動を中心に行っている。定期的に個別支援を行うことを検討している。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3	2	・毎朝申し送りをし、その日の利用状況、送迎、活動内容などを共有している。	・役割分担については工夫が必要。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	3	・その日の児童の活動や様子をメモ用紙に記録している。	・終業時間に送迎が終わるので、翌日に申し送りを行っている。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5			・記録した内容に関して職員間での情報共有もこまめに行う必要がある。
	20 定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5		・記録を元に児童の様子を話し合い、支援計画を見直している。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5		・児童発達支援管理責任者が参加している。	
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4		・必要に応じて、教育委員会、相談員等と連絡を取り、支援している。	
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	3	2		・現在、対象児はいないが、今後、受け入れる場合には、関係機関と連携し、支援を行う。
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	3	2		・現在、対象児はいないが、今後、受け入れる場合には、関係機関と連携し、支援を行う。
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5		必要に応じて行っている。	
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5		必要に応じて行っている。	
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5		・同じ地域の事業所と連携を取っている。	
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	5		・同じ敷地に学童があるので毎日関わっている。	
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5		・児童発達支援管理責任者が参加している。	
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5		・送迎時に様子を伝え合っている。	
	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2	3		・保護者会等でペアレント・トレーニングを取り入れて開催したい。
32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5		・契約時に行っている。		
33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5		・申し入れがあった際には職員間で共有し、必要に応じて管理者から代表に相談、保護者対応を早急に行っている。		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	34	定期的、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5		・送迎時にコミュニケーションを取るように心掛けている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	2	・地域の事業所と連携を取り、保護者を招いて、ゆんたく会を開催した。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5		・申し入れがあった際には職員間で共有し、必要に応じて管理者から代表に相談、保護者対応を早急に行っている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5		・毎月、通信を発行している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	5		・鍵付きのロッカーで保管している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5			・絵カード等のツールも使用する。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	1	・地域の祭りで事業所の活動内容の展示を行っている。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5		・年に2回避難訓練を行っている。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5		・救急救命講習を受講している。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5		契約時に確認している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5			・現在、アレルギーのある児童はいない。 ・対象児がいた場合は保護者から指示書を提出してもらう。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	1	4	・危険な事例があった場合は申し送り等で報告している。	・作成しているが、周知や活用ができていない。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5		・年に1回研修を行いレポートを提出している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5		・虐待防止研修と合わせて身体拘束等の適正化研修も行っている。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。